

# 日本・海上自衛隊の護衛艦が東海港に入港（7月9日）

2009.07.09 15:48



《韓日搜索救難訓練で初めて》

日本の海上自衛隊に所属する艦艇が8日、江原道・東海港に初めて入港した。

海軍第1艦隊司令部によると、6～7日に隠岐諸島の北方で実施された韓日搜索救難訓練（SAREX）に参加した5300トン級と2550トン級の護衛艦「おおなみ」「あぶくま」2隻が、8日午前9時に東海港に入港した。海軍将兵と官民郡の主要関係者250人余りが歓迎行事を行った。

韓日搜索救難訓練は、海上での船舶遭難事故発生時における海軍・自衛隊間の共同対処能力の向上と共助体系を構築し、軍事交流と友好関係増進を図ることを目的とする、人道主義的次元から平和的に行われる訓練。1999年に始まり、今回で6回目を数えるが、海上自衛隊の艦艇が東海港に入港したのは、今回が初めてだ。海軍第1艦隊は、双方の軍事連帯強化に大いに役立つものと期待を示している。

「おおなみ」と「あぶくま」は10日まで東海港に停泊し、訓練講評と安保現場視察を行うほか、文化探訪、海軍将兵と自衛官が参加する親善スポーツ大会、艦上レセプション、歓迎軍楽演奏会など、さまざまな交流行事も開催する。

一方、海上自衛隊艦艇の東海港入港は、東海（日本名：日本海）を作戦区域とする海軍第1艦隊と海上自衛隊舞鶴地方隊間の指揮官相互訪問などを通じた、緊密な交流協力の結果と評価される。

（2009年7月9日、聯合ニュース）

---

Full content of this article may not be redistributed without the consent of Yonhap News Agency.

Copyright (c) Yonhap News Agency. All rights reserved